

①

オオイヌノフグリ

犬の陰嚢
ゴマノハグサ科

キリストの奇跡が結実した後は？

植物の本に必ず「かわいそうな名前」と紹介されているのがオオイヌノフグリである。早春にいち早くコバルトブルーの美しい花を咲かせて、春の訪れを感じさせてくれるオオイヌノフグリを愛する人は多い。しかし、この名前の意味は「大犬のふぐり」である。実はふぐりとは陰嚢いんのう、すなわち睾丸こうがんのことだ。方言名ではそのものズバリ、「イヌノキンタマ」と呼ぶ地方もある。

オオイヌノフグリは帰化植物だが、似た仲間に日本在来のイヌノフグリという植物がある。花の実が後ろから見た犬のふぐりに似ているため、この名がつけられた。物に見立ててうまいあだ名をつける人がいるが、イヌノフグリもまさに「座布団一枚！」の口である。

・オオイヌノフグリの実もふぐりに似ている。しかし、在来のイヌノフグリの実は丸く、だらんとして野暮ったいのに比べて、舶来もののオオイヌノフグリの実はやや尖ついて、しゃきつとしている。いわば貴族のふぐりとでもいおうか。

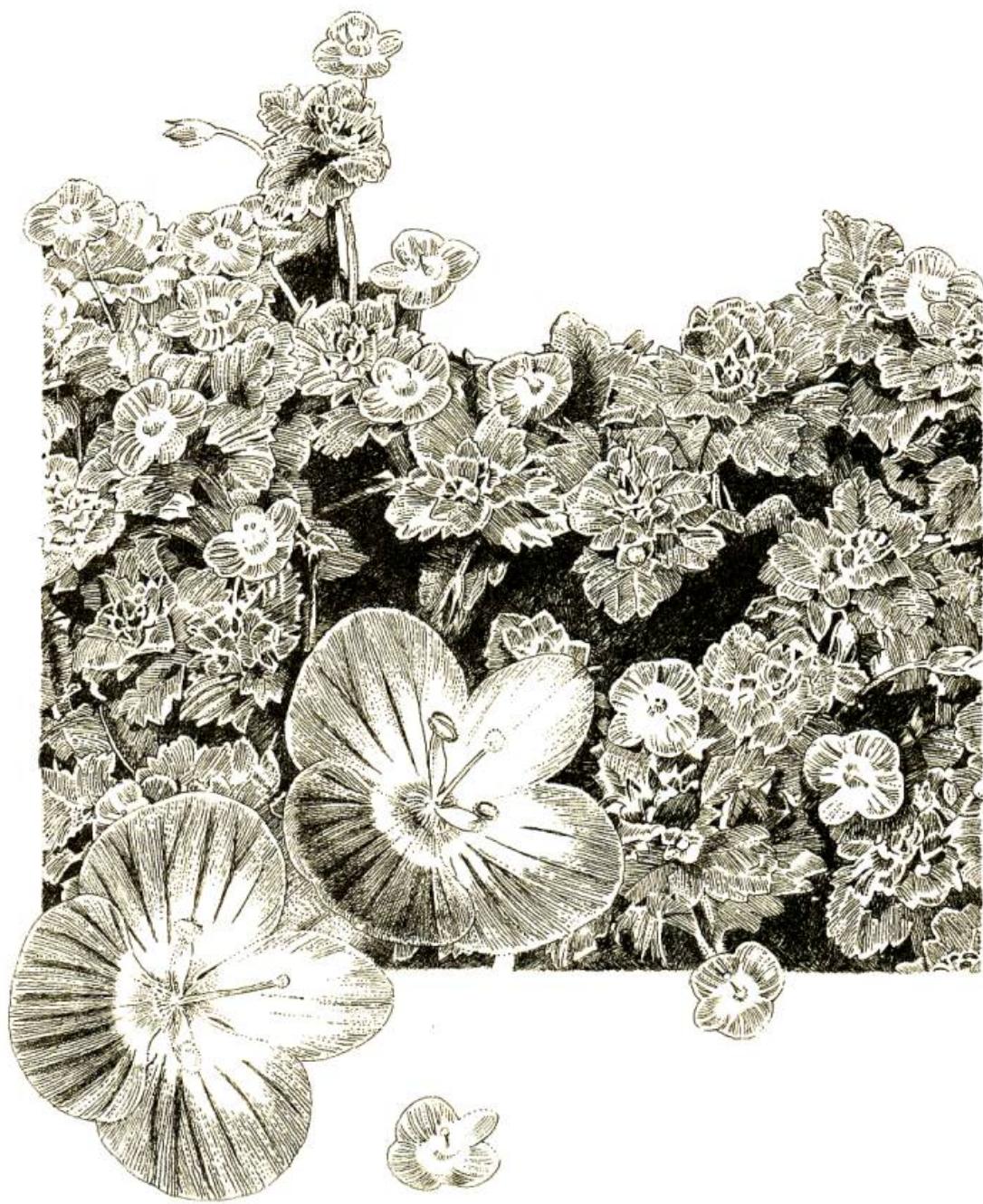
犬ふぐり星のまたたく如くなり（高浜虚子）

この句で詠まれてているのはもちろん犬のきんたまではない。オオイヌノフグリの花である。早春に咲く姿はまさに星をちりばめたように美しい。日本でも「星のひとみ」と呼ぶ地域もある。英名は「キャツツ・アイ（猫の瞳）」で、高価な宝石を思わせる。いずれもオオイヌノフグリよりはずっとふさわしい呼び名に思えるが、当たり前すぎて座布団をあげる気にはなれない。

美しい花をふぐり呼ばかりしてはかわいそうと、「瑠璃唐草」や「瑠璃鉢形」という名も提案されたが、結局定着せず、今でも「犬のふぐり」のままである。大人になつて、どんなに立派になつても幼なじみから昔の恥ずかしいあだ名で呼ばれてしまうようなものだろう。うまいあだ名をつけられた者の宿命というべきだろうか。

オオイヌノフグリの学名は「ベロニカ」という。重い十字架を背負つて刑場に向かうキリストの顔の汗を拭いてあげた女性のハンカチに、キリストの顔が浮かび上がるという奇跡が起きた。この女性の名がベロニカである。オオイヌノフグリの美しい花をよく見ると、花のなかにキリストらしい人の顔が浮かび上がっている。これがベロニカと呼

(3)



ばれるゆえんである。なんと高貴な名なのだろう。

花に浮かび上がったこのキリストの顔は、実はハチやアブを呼び寄せるための模様である。四枚の花びらには中央へ向かって蜜のありかを示すガイドラインが引かれている。まさに迷えるハチたちを導いているのである。

とはいっても、オオイヌノフグリがハチを呼び寄せるのは、もちろんハチたちを思つてのことではない。

オオイヌノフグリの花は揺れやすいしくみになつてるので、訪れたハチやアブは振り落とされないように懸命である。そのとき、ちょうどしがみつきやすい位置に雄しべと雌しべが配置されている。そして、ハチがもがいてしがみつくと、花粉がハチの体につくのである。溺れる者は藁をもつかむ。必死にしがみつこうとしながらオオイヌノフグリの受粉に利用しているか弱き昆虫たちに、神のご加護があることを祈らずにいられない。

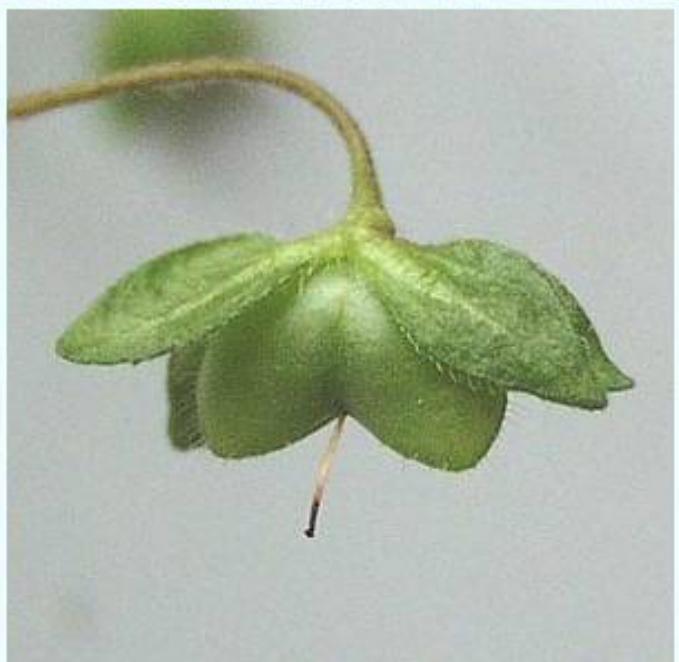
こうしてみごとに受粉に成功した高貴なベロニカは、やがて実を太らせていく。そしてキリストの顔を浮かび上がらせた奇跡の花は、ついには凡俗な「犬のふぐり」へと姿を変えていくのである。

オオイヌノフグリ *Veronica persica* Poir. (ゴマノハグサ科 クワガタソウ属)

オオイヌノフグリは、ヨーロッパ原産の帰化植物で、1890年頃に東京に帰化したことがわかっている。路傍や畑の畦道などによく見られ、早春からコバルト色の花を咲かせる。春の訪れを感じさせる植物の一つである。花弁は4枚、雄しべは2本である。

名前の意味は、大きな「犬のフグリ」であり、フグリとは陰囊の意味である。果実の形が陰囊を連想させるとの意味であるが、同じ属にイヌノフグリがなければ、この花のイメージからはもっと可憐な名前がついたに違いない。

オオイヌノフグリは、秋の日だまりの中芽生える。草刈りされた跡地にびっしりと小さなオオイヌノフグリが芽生え、やがて花の時よりも大きいほど葉を展開して高さ数cmほどに生長するが、真冬になると大きくなるのをやめて花芽を付けはじめる。昼間の日だまりは結構暖かいのであろうが、夜の冷え込みは厳しく、温度差の激しい環境を堪え忍ぶ仕組みを持っているのである。



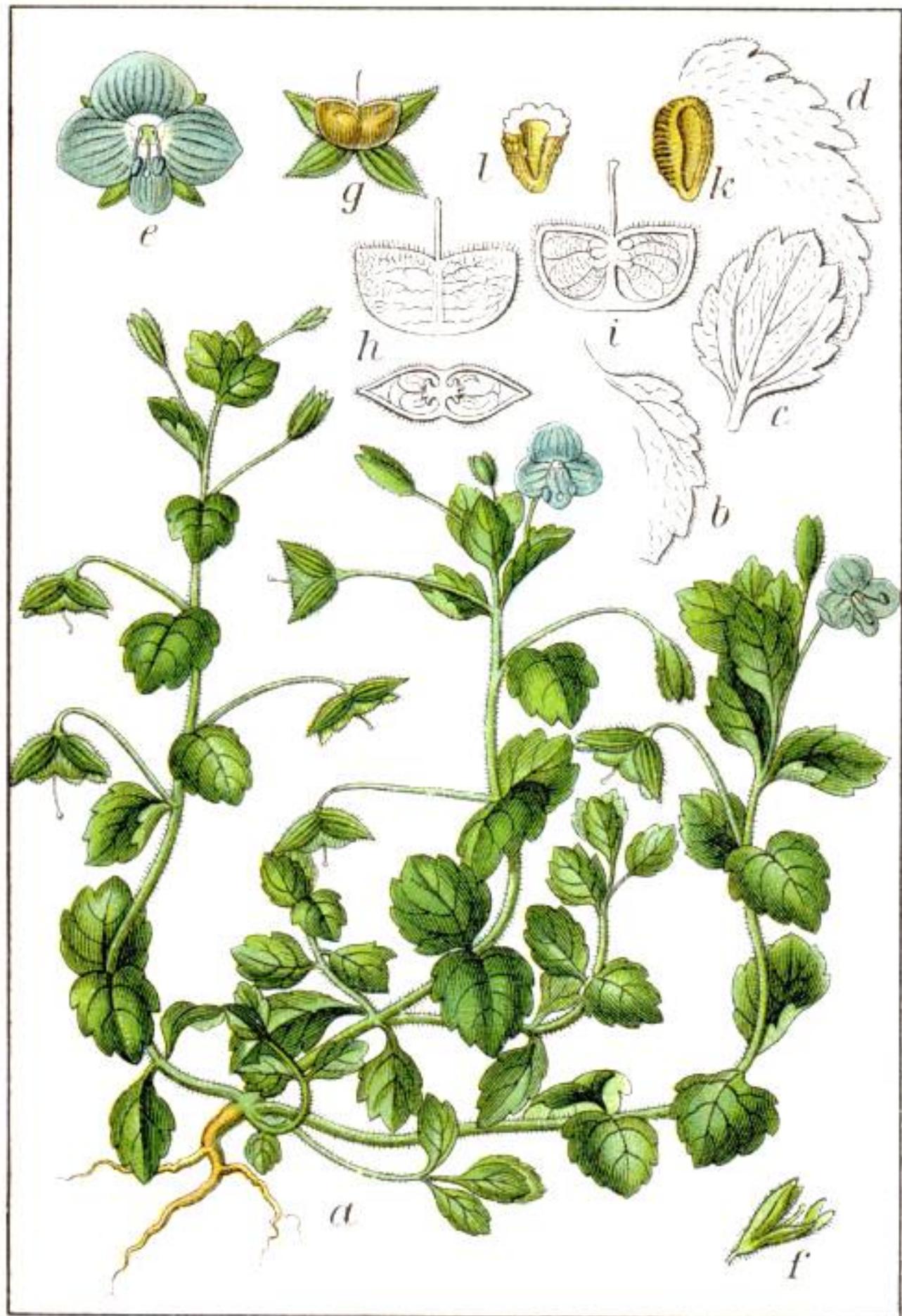


1. オオイヌノフグリ 2. オオイヌノフグリの葉と芽生え 3. オオイヌノフグリの花



1. オオイヌノフグリ 2. オオイヌノフグリの葉と芽生え 3. オオイヌノフグリの花







オオイヌノフグリという名は、その果実の形に由来します。花は上を向いて咲くのに、果実は下を向いてますね。



う～ん。上の写真では、よくわからないかもしれません。

